

# 新年にあたって

公益社団法人 日本証券アナリスト協会  
会長 大場 昭 義 CMA



新年おめでとうございます。

昨年はわが国の金融・資本市場の新たな発展に向けた動きが具体化した年でした。責任ある機関投資家の行動原則である「スチュワードシップ・コード」に加え、「コーポレートガバナンス・コード」も適用が開始され、企業と投資家の建設的な対話を通じ持続的な企業価値の向上に向けた動きが具体化してきました。

こうした中、金融庁から示された金融行政方針にも見られるように、資産運用業への期待はこれまでになく高まっています。また、昨年9月には「東京国際金融センターの推進に関する懇談会」から金融・資本市場の更なる発展に向け、資産運用業の強化とともに市場の活性化策、ビジネス環境の整備などが報告書としてまとめられました。

会員の皆さまには関心の高い事柄と思われまますし、実現に向けた課題が整理されていますのでポイントをお伝えしたいと思います。

まず、東京国際金融センターの意義ですが、日本経済は少子高齢化等の構造的な課題を抱えており、経済が持続的に成長を遂げるためには、成長著しいアジアをはじめとする海外からの「ヒト、モノ、カネ、情報」の呼び込みを促し、海外と一体となった成長を図ることが不可欠であること、またこれまで日本の経済成長を支えてきた製造業等に加え、今後は証券業・運用業がフロントランナーとして日本経済の成長をけん引していくことが期待されています。その実現のために東京が国際金融センターとして機能することが求められています。

目指すべき東京国際金融センターの姿は、東京市場がアジアでナンバーワンの地位を確立し、海外投資家からは「資金運用の場」として、海外発行体からは「資金調達の間」として、海外金融機関・運用会社からは「ビジネスの間」として、東京がアジアにおいて最も選ばれる市場となることです。東京は、香港・シンガポールといったアジアにおける他の国際金融センターとは異なり、アジア随一の規模を誇る経済を支える国内企業群や1,700兆円超の個人金融資産を背景とした国内取引の厚みという強みがあります。この強みを最大限に生かし、東京市場の魅力を高めていくことが有効な手段といえ、株式、債券、

デリバティブ等の各市場において、多様かつ魅力的な商品を提供することにより、豊富な金融資産を保有する国内投資家の市場参加を促進し、市場の厚みを更に増すことが、結果として海外投資家が参加しやすい市場の形成につながると考えられます。

報告書では具体的な取組みが示されています。運用業の強化では、①資産運用等に関するワーキング・グループ（仮称）の設置、②資産運用業の海外調査、③外国政府・公的機関のロードショー支援、④「日本版スチュワードシップ・コード」の普及・定着に向けた取組み、⑤拡大版コーポレートガバナンス研究会の継続的開催等が挙げられています。

また、市場の活性化に向けた取組みとしては、①株式等の市場では、コーポレートガバナンス・コードの普及・定着やETF・J-REIT・インフラファンド等多様な商品の上場、②債券市場では、「社債市場の活性化に関する懇談会」における継続検討や債券市場の活性化に向けたフォーラム開催の検討、③デリバティブ市場では、個人投資家への金融教育の推進や新規市場・商品の育成に係る業界全体の意識の改革、最後に④プロ向け市場・決済インフラでは、プロボンド市場の活用、投資の促進や国債のT+1化の実現に向けた検討と株式T+2化に関する検討などです。

ビジネス等の環境整備では、①英語による海外への情報発信の強化、②新興国市場支援の拡充、③国際金融に関係する会議・拠点等の開催・誘致などが提案され、日本橋兜町・茅場町一丁目地区は東京圏国家戦略特別区域会議において新たな「国家戦略特区」のプロジェクトとして追加され、資産運用業者等の起業・発展の支援、投資家と企業の対話・交流促進拠点の形成等が図られることが期待されています。

東京の国際金融センターとしての地位確立は、日本の金融・資本市場のさらなる発展に資することはもとより、極めて重要な成長戦略の一つと考えられます。とりわけ資産運用業の強化は、企業ヘリスクマネーを提供するとともに、それを通じた国民の安定的な資産形成に資するものでありますので、国家的戦略としてその育成・フォローについて積極的に取り組まれることが強く期待されています。また、金融・資本市場に携わる者として、業界の健全な発展のために、提言された取組みが早期に実現されるよう自らも鋭意努力するとともに、その原点であります顧客からの信頼に応えるため、フィデューシャリー・デューティーを強く意識し、課題解決に取り組んでいくことが期待されています。

東京の国際金融センターの実現に向けて、アナリスト諸兄・諸姉が活躍する舞台は一段と広がっていくと思われれます。

今年一年のアナリスト諸氏の活躍を祈念するとともに、会員の皆さま、関係者の皆さまの一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。